

あたら わ にっぽん 新しく分かってきた日本

5班 金 周恩さん(韓国)

15年前、初めて日本を旅行して以来、いつか日本で必ず住みたいという夢がずっとありました。その時、地上を走る電車から眺めた町の景色や街を往来する自転車の姿が何となく穏やかに感じられ、長い間忘れられませんでした。



2年前、日本への教師派遣に応募し、夢が叶って日本で住むようになりました。そして新しく日本の素晴らしい多くの姿に触れることが出来ました。

まず、自発的な市民団体とボランティアの活動が活発であることです。

外国人が日本で住み、働きやすいようにボランティアが中心になって作った「日本語教室」、その規模、組織、活動内容や長い活動期間、などに驚きました。また、この教室を構成するボランティアの方々は会社を退職後の人が多く、活発な社会活動を行われていることが印象的でありました。

次に分かったことは高い市民の奉仕精神です。今まで経験のなかった強い台風が過ぎ去った翌日の朝、街がきれいに掃除されていた様子に驚きました。家の前を常にきれいに清掃する習慣、そして罰金なしでもゴミの分別が守られる習慣、などが不思議でした。特に、人に迷惑をかけないよう子供たちに教える姿が印象的でした。また、バスや電車の中で大きな声で話をしたり、携帯を使ったりしないことで公共場所での静かさが維持されていることに感心しました。

それからバスの運転手、店員、官庁の職員、街のどこかで会う人がいつも親切で相手を尊重している態度であること。そ

して「すみません」と感謝の言葉を挨拶のように話すのを聞き、私も相手を尊重して接する態度を身に着けました。

3番目は、何事にも慎重さと几帳面なことです。

日本の風景が15年前と比べてあまり大きく変わっていなかったことに驚きました。これは古いものを不便に思わず、大事に、出来るだけ長く、きれいに使おうとする節約精神から出たものであると分かりました。現在住んでいるマンションが台風の後、補修・修理することになり、業者がすべての作業手順を入居者に一つ一つ詳しく説明してくれるのを見て、信頼が高まりました。今まで、結果や速さを優先した私は日本に住んで「正確な手順と慎重さ」の大事さを学びました。

外国生活での大きな長所は、その社会と文化の良いことを学び、自分の視野を広げ、これを自国に広く知らせ、役立たせることだと思えます。これから残りの2年間、まだ分からない新しい日本文化をもっと探して、見つけたいと思えます。

わかごうせい 若合成

4班 付 維楨くん(中国) = ゼンちゃん



わか
「若っ！」

わか えら
「キミ、若いのに偉いですね！」

まわ
いつもどこかで、周りからこのような言葉が聞こえてくる。

じぶん ゆいいつ
そして自分ができる唯一なことは

うれ きも はん
嬉しい！という気持ちに反して、「いえいえ、そんなことない

へんじ わら こえ つ くわ
よ！」と返事をし、「えへへ」の笑い声を付け加えるともっと効果抜群であると、社会が私達に教えてくれた。

は かいわ なか うそいつわ しんじつ そんざい
でも、果たしてこの会話の中に嘘偽りのない真実は存在する
のか。つまり、私、本当に若いかどうか？と、最近それを
けんしょう
検証せずにはいられなくなった。

まず中国で暮らしていた時、確かに一度も若いと評価されたことないような気がする。それと反対に、もう若くないから早く自立しなさいとずっと言われていた。私の国では若さ＝無力さとかなり低く評価するのが原因かな、みんなそれをあまり口にしないと思う。

では、今いる環境で考えたらず？

日本社会の年齢層から見れば断然若いのは言わずもがなのことだけど、一番私達に近い、市岡日本語教室で見ても、恥ずかしながら若さには当てはまるようだ。

答えが二つに別れた時点でもう一度自分自身を見返した。

25歳、いろいろな意味で微妙な年頃。

若い人たちが青春を謳っている今、こちらは学割を失い、

志を見失い、心身とも若さから急速に離れていく。まして、「見た目からもっと大人だと思った」と、もう一つの言葉はまるで老けた顔を映す鏡のようだ。

やがて自分にはない機会や能力は皆自分より若い人にある

と気付いて、もう私自身に「若い」と二度と言えなくなった。

でも、少しでも若さを取り戻したいのならば、どうすればいいか。

私なりに考え出せるのは、若い人たちとの繋がりがだ。

例えば若かりし頃の出来事や若者文化は若い人と一緒にいれば自然に伝わるもので、大人になりすぎた私たちの周りにはやはり自分より若い存在が必要なんだ。

そうだ、市岡日本語教室で海外からの若い人達と交流している皆様もきっと、世界共通の若さをいっぱい吸収して、

かえっていつも若々しいパワーを相手に注いでいると思う。

実に素晴らしい「若合成」（造語です。）なんだ！

故に、よれよれな私だってまだこんなに若くいられるのも、

きっと皆様のおかげだね！ 「えへへ。」

まな げんてん かん き いちおかにほんごきょうしつ
学びの原点を喚起してくれる 市岡日本語教室

5班 五味久美さん(ポランテア)

2018年4月7日からの今年度がスタートして私は、実に、

いろいろな国の学習者の方々（ベトナム、インドネシア、フ

ィリピン、タイ、台湾、中国）に出会い、語り合い、共に学びあってまいりました。私の中には常に、自然を求める気持ちがあつて、四季の持つ、様々な表情を教材化することに努めました。・・・本物の果物、野菜、多種の発酵食品に触れ、味見する、更に、新聞記事、写真等を駆使し、紹介してきました。

とりわけ、1986年から送ってもらっている、詩人の羽生禎子さん制作の、自然の息吹ほとばしる美しい写真（野菜類、花々、

野鳥、昆虫、雲、空、畑、木々、果実、野草）には、どれほ

ど助けられてきたことか！！ 学習分野は多岐にわたり、学習者さんのニーズを汲み取れていない弱さを多分にもって

いますが、ここに3人の女性との学びを紹介させていただきます。

《共感の輪を広げたいな》

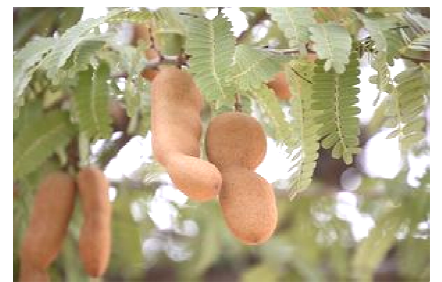
※フィリピン・タマリンドのこと、豆図鑑を提示し、納豆、

みそ、とうふ、あんこなど豆を

使った食べ物を紹介すると、

「あっ、してる！！」と彼女

が指さしたのはタマリンドの



豆果でした。（長さ10～20cmの筒状のソラマメに似る）あん

ずの乾燥果に似た酸と甘みがあるそうでスモモ・アンズの花や

実の紹介はしたのですが、本物を味見したかったです。

※ベトナム・幼子を抱えながら、「すきや」で懸命に働いて

いる若き女性との学びで、秋のうろこ雲の写真を提示し、魚の

うろこのように輝いてみえるよと伝えると、表情がぱっと

あか明るくなって喜んでくれました。とてもていねいに感想を書

いてくれました。

※メコンデルタ地帯のダントップ省が郷里の若き女性とは、

こめ はず せいさんち ゆうめい さいばい
米や蓮の生産地として有名であることをしり、その栽培のよう

すや土のパワーについて話しました。また、千葉県八街産の

落花生を紹介し、味わってもらいました。

《手作り物を探して》

* 芙蓉の茎の繊維の利用 * 漆塗りの漆器について

* 草木染め（徳島県の阿波藍）について * 日本酒造り

* 焼き物（陶磁器）等について、学習者と話しました。

新年は、1月11日（金）からです。